

計画段階評価について

とっとり とよおか みやづ
鳥取豊岡宮津自動車道（とっとり鳥取～ふくべ福部）

第3回 説明資料

令和元年 12月5日

国土交通省 中国地方整備局

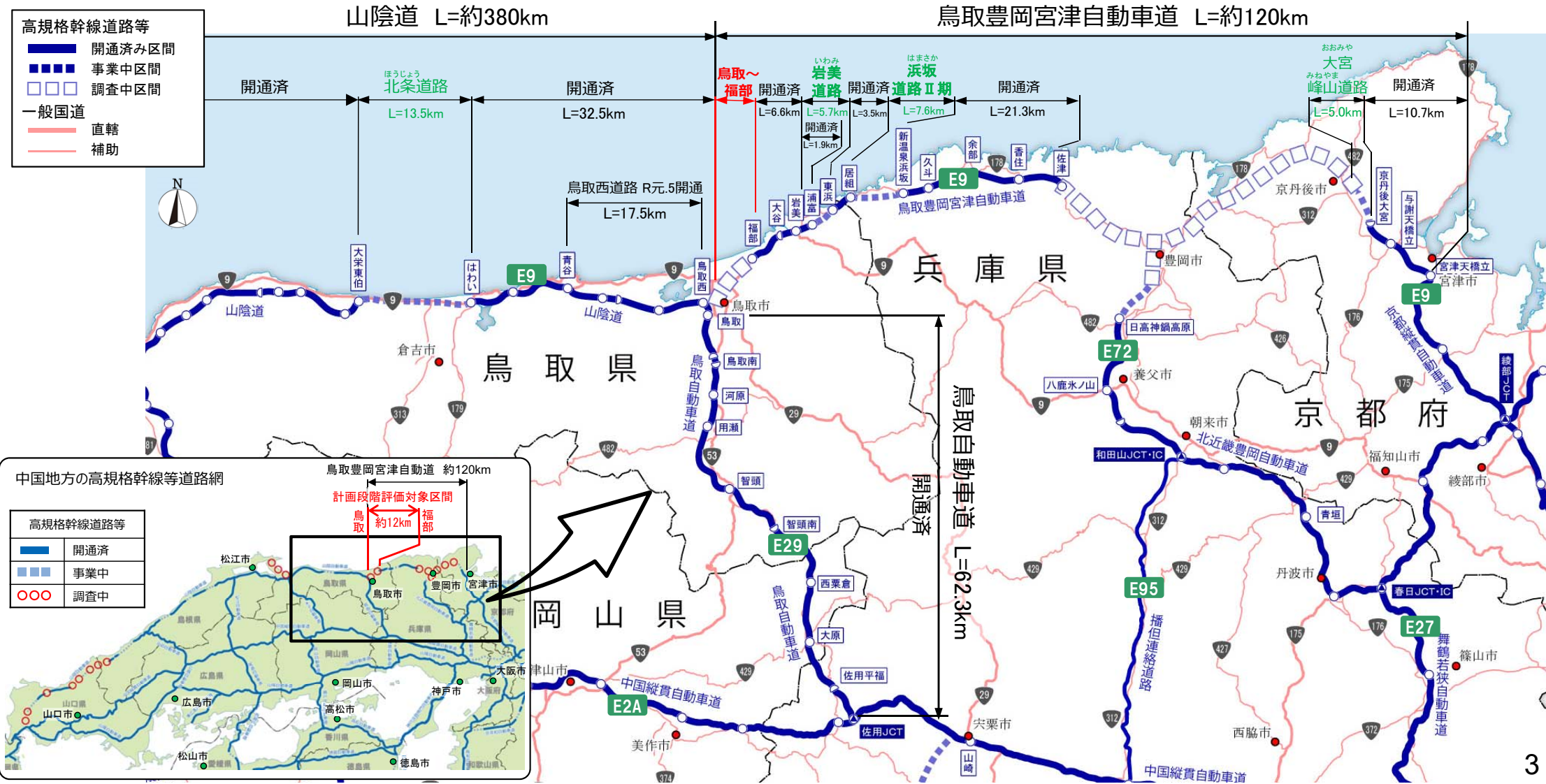
1. 計画段階評価の検討の流れ	・ ・ ・ 2
2. 第2回意見聴取の概要	・ ・ ・ 9
3. 第2回意見聴取の結果	・ ・ ・ 15
4. 対応方針（案）の検討	・ ・ ・ 28
5. 自治体への意見照会結果	・ ・ ・ 32
6. 対応方針（案）のまとめ	・ ・ ・ 34

1. 計画段階評価の検討の流れ

1. 計画段階評価の検討の流れ

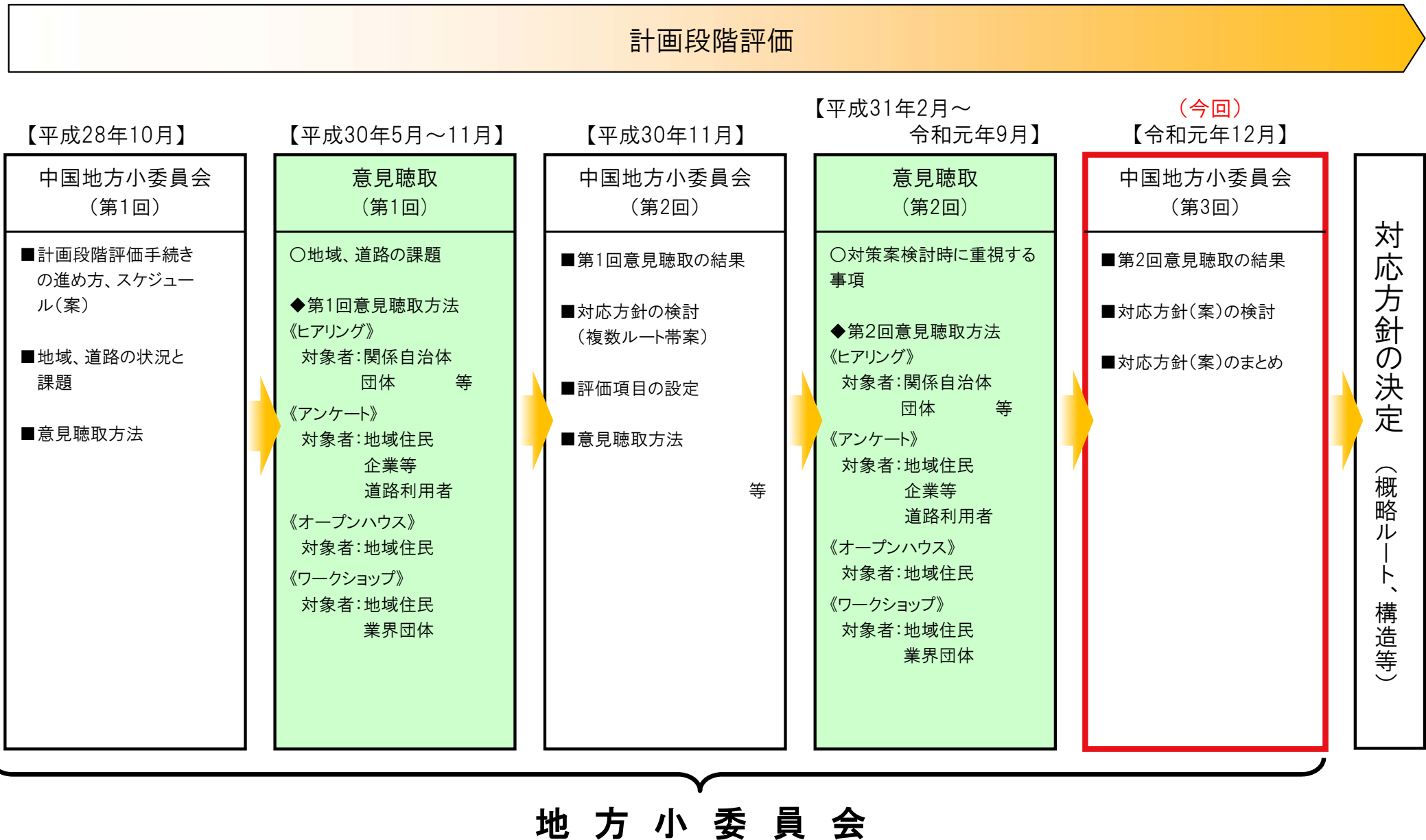
1) 評価対象区間

- 当該区間は、鳥取県東部、兵庫県但馬、京都府北部の各地方生活圏を連絡する鳥取豊岡宮津自動車道の一部をなし、鳥取自動車道と山陰道に接続し、山陰と山陽、日本海国土軸とを結節する交通の要所に位置する。
- 鳥取豊岡宮津自動車道は、約120kmのうち、44kmが開通済み。
- 鳥取県内の山陰道は、北条道路が平成29年度に新規事業化。鳥取西道路が令和元年5月に全線開通。



1. 計画段階評価の検討の流れ

2) 計画段階評価手続きの進め方、スケジュール（案）



1. 計画段階評価の検討の流れ

3) 前回審議内容と指摘事項への対応

■社会資本整備審議会 道路分科会 中国地方小委員会（2回目）の概要

実施日：平成30年11月29日（木）開催

- 主な議事：①第1回意見聴取の結果について
②対応方針（原案）の検討について
③第2回意見聴取方法について

●前回審議での主な指摘事項と対応状況

指摘事項	対応状況
まちづくりをどう考えるかで意見は変わる。意見聴取にあたっては、計画する道路の持つ機能（物流、人流等）をきちんと情報提供すべき。	各ルート帯（案）に、拠点アクセス性や整備効果等の特徴の整理を追加し、アンケートやワークショップ等での意見聴取にあたり情報提供した。
道路整備による景観や生活環境への影響に係る情報も提供すべき。	概略ルート帯までの検討であり構造等は未定であることから、景観・生活環境への具体的な影響を示すことが困難であるため、アンケート設問に「道路を整備することによる懸念事項（生活環境、自然環境等）」の自由記述を追加した。 また、道路整備による良い面・負の側面をまとめたパネルを作成し、オープンハウスやワークショップで展示・説明した。
道路機能を十分に発揮できるように、拠点施設や道路の使い方も含め意見を把握できるよう検討すること。	ワークショップ（第2回・第3回）において、まちづくりや道路の使い方の観点からIC候補位置や懸念事項等を意見聴取した。 また、アンケートでも利用促進について道路以外で取り組むべきことの意見聴取も行えるようアンケート資料を工夫した。

1. 計画段階評価の検討の流れ

3) 前回審議内容と指摘事項への対応

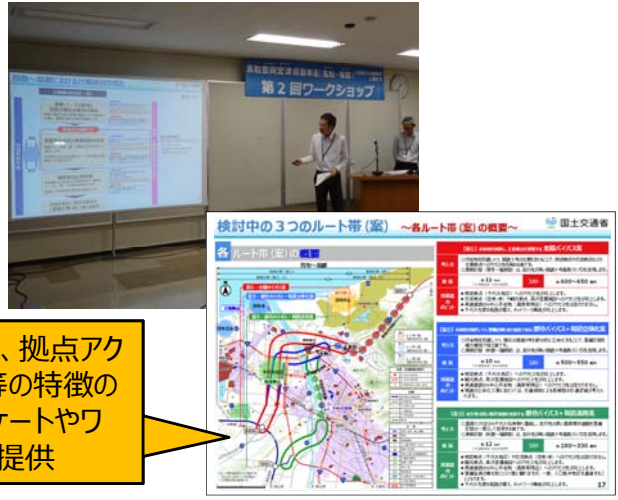
■ まちづくりをどう考えるかで意見は変わる。意見聴取にあたっては、計画する道路の持つ機能（物流、人流等）をきちんと情報提供すべき。

各対策案の特徴

提示した対策案に対して、皆さまが重視される評価のポイントについてご意見いただき、対策案検討の参考にいたします。

対策案の概要	案1	案2	案3
	市街地を貫通し、主要幹線道路と接続する 道路幅員10m	市街地を貫通し、主要幹線道路と接続する 道路幅員10m	市街地を貫通し、主要幹線道路と接続する 道路幅員10m
評価のポイント	<ul style="list-style-type: none"> 市街地を貫通し、主要幹線道路と接続する道路幅員10m 市街地を貫通し、主要幹線道路と接続する道路幅員10m 市街地を貫通し、主要幹線道路と接続する道路幅員10m 	<ul style="list-style-type: none"> 市街地を貫通し、主要幹線道路と接続する道路幅員10m 市街地を貫通し、主要幹線道路と接続する道路幅員10m 市街地を貫通し、主要幹線道路と接続する道路幅員10m 	<ul style="list-style-type: none"> 市街地を貫通し、主要幹線道路と接続する道路幅員10m 市街地を貫通し、主要幹線道路と接続する道路幅員10m 市街地を貫通し、主要幹線道路と接続する道路幅員10m
交通機能	<ul style="list-style-type: none"> 交通機能向上 交通機能向上 交通機能向上 	<ul style="list-style-type: none"> 交通機能向上 交通機能向上 交通機能向上 	<ul style="list-style-type: none"> 交通機能向上 交通機能向上 交通機能向上
環境機能	<ul style="list-style-type: none"> 環境機能向上 環境機能向上 環境機能向上 	<ul style="list-style-type: none"> 環境機能向上 環境機能向上 環境機能向上 	<ul style="list-style-type: none"> 環境機能向上 環境機能向上 環境機能向上
社会機能	<ul style="list-style-type: none"> 社会機能向上 社会機能向上 社会機能向上 	<ul style="list-style-type: none"> 社会機能向上 社会機能向上 社会機能向上 	<ul style="list-style-type: none"> 社会機能向上 社会機能向上 社会機能向上
経済機能	<ul style="list-style-type: none"> 経済機能向上 経済機能向上 経済機能向上 	<ul style="list-style-type: none"> 経済機能向上 経済機能向上 経済機能向上 	<ul style="list-style-type: none"> 経済機能向上 経済機能向上 経済機能向上
その他	<ul style="list-style-type: none"> その他 その他 その他 	<ul style="list-style-type: none"> その他 その他 その他 	<ul style="list-style-type: none"> その他 その他 その他

各ルート帯（案）に、拠点アクセス性や整備効果等の特徴の整理を追加し、アンケートやワークショップ等で情報提供



▲ワークショップ（第2回）での情報提供
【参加者に説明する様子（左上）／説明資料の一部（右下）】

▲アンケート調査での情報提供
【アンケート同封資料への情報追加】

■ 道路整備による景観や生活環境への影響に係る情報も提供すべき。

【アンケート質問票】
（ご回答は、「回答はがき」に記載してください）

質問1 今回、3つのルート帯（案）を検討していますが、地域によって望ましい案を考える際に何が重要だと思いますか？
以下の重視すべき項目1～5の中から、特に重視すべきと思われる項目について、自由記述を追加

質問2 インターチェンジなど周辺からのアクセスを検討する際、どのようなことに配慮すべきだと思いますか？ご自由にお書きください。

質問3 道路を整備することによる懸念事項（生活環境、自然環境等）がありましたら、ご自由にお書きください。

■回答方法：「回答はがき」に記入し、切り取って郵便ポストに投函してください。

アンケート設問に「道路を整備することによる懸念事項（生活環境、自然環境等）」の自由記述を追加

▲アンケート調査での意見把握
【アンケート設問の追加】

道路整備による良い面・負の側面をまとめたパネル「道路整備による光と影」を作成し、オープンハウスやワークショップで展示・説明

オープンハウス（鳥取市南庁舎）

ワークショップ（第3回）

▲道路整備による良い面・負の側面の情報提供
【作成パネル「道路整備による光と影」（左）／オープンハウス・ワークショップで展示・説明する様子（右）】

■ 道路機能を十分に発揮できるように、拠点施設や道路の使い方も含め意見を把握できるように検討すること。

第2回テーマ
ワークショップでお伺いすること
テーマ：「インターチェンジなどアクセスを検討する際の配慮すべき点について考えてみよう！」

第3回テーマ
ワークショップでお伺いすること
テーマ：「不安を解消・低減するためのアイデアを考えてみよう！」

▲意見把握のためのWSテーマの設定

ワークショップにおいて、まちづくりや道路の使い方の観点からIC候補位置や懸念事項等を意見聴取

▲鳥取大学長曾我部助教による講演（第2回ワークショップ）
【題目：道づくりでまちづくり～鳥の視点でパーツと見渡す～】

【アンケート回答例】

利用促進について道路以外で取り組むべきことの意見聴取も行えるようアンケートの回答例を工夫

（質問1）アンケート質問票に示している重視すべき項目1～4のうち、特に重視すべきと思われる項目について、最大3つまで選んでください。番号とその理由・内容を併せてお書きください。

（質問2）インターチェンジなど周辺からのアクセスを検討する際、どのようなことに配慮すべきだと思いますか？ご自由にお書きください。

（質問3）道路を整備することによる懸念事項（生活環境、自然環境等）がありましたら、ご自由にお書きください。

▲アンケート調査での意見把握
【アンケート回答例の工夫】

1. 計画段階評価の検討の流れ

4) 政策目標

◆地域の現状と課題や将来像等を踏まえ、改善すべき地域課題(政策目標)を以下に設定

地域の課題	産業（商工業/農水産業）	観光	安全安心	
	<ul style="list-style-type: none">鳥取市千代水地区では、国道29号の慢性的な渋滞により、高速ICへのアクセス性が低く、物流活動への支障となっている岩美町では、基幹産業の一つである水産業の持続的発展のため、輸送時間短縮による水産物の販路拡大支援が重要	<ul style="list-style-type: none">鳥取東部地域では、鳥取砂丘周辺を周遊する観光客が大半を占め、岩美町への周遊は少ない観光シーズンには、鳥取IC～鳥取砂丘間の所要時間は通常時の3倍に増加山陰海岸ジオパークの世界ジオパークネットワーク加盟以降、広域観光促進に向けた取組が実施されているが、地域間をつなぐ高速道路整備は遅れている	<ul style="list-style-type: none">鳥取市街では、国道29号等を中心に主要渋滞箇所が連続して存在渋滞箇所では、速度低下を要因とした追突事故が多発市街地の渋滞により、救急搬送時において定時性や安静搬送の面で課題となっている千代川の洪水時には、国道29号や53号が冠水し、救命・救助などの緊急活動に支障をきたすことが懸念される	
	日常生活の利便性、安全性の向上	災害時にも機能する信頼性の高いネットワークの確保	救急医療機関への速達性向上	産業活動の支援

政策目標

◆対策案の検討

<p>【交通円滑化・安全性向上】 現道の交通混雑を緩和する道路整備とは 安全性を高める道路整備とは</p>	<p>【代替性・信頼性】 災害時においても地域経済活動や日常生活への影響を最小限に留め、住民の生活や地域の産業を守る道路整備とは</p>	<p>【医療関連】 鳥取東部地域だけでなく、鳥取中部や兵庫県北部などの住民生活の安心確保に向けた高次医療機関への速達性・確実性を向上させる道路整備とは</p>	<p>【産業活動関連】 千代水地区に集積する企業の物流活動の支援や農水産業の市場拡大を促すための道路整備とは</p>	<p>【観光関連】 主要観光施設である鳥取砂丘における新たな観光客獲得や、ツインポートを核とした鳥取東部地域・山陰海岸ジオパークなどの周辺地域への観光周遊を促す道路整備とは</p>
---------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------

当該地域の課題を解決し、地域の将来像を実現する対策案を複数案設定

1. 計画段階評価の検討の流れ

5) 複数ルート帯案の設定

- 東側区間は、アクセスコントロールされた国道9号鳥取バイパスを活用する。
- 西側区間は、既成市街地への影響を最小限に抑えながら、政策目標の達成を考慮し、以下の対策案を設定。

【案①】 市街地を回避し、主要拠点へのアクセス性に優れる 全線バイパス案

○ : ルート帯(案) ●●●● : 現道活用区間(案)

【案②】 市街地を回避しつつ、整備区間を極力最短で結ぶ 部分バイパス+現道立体化案

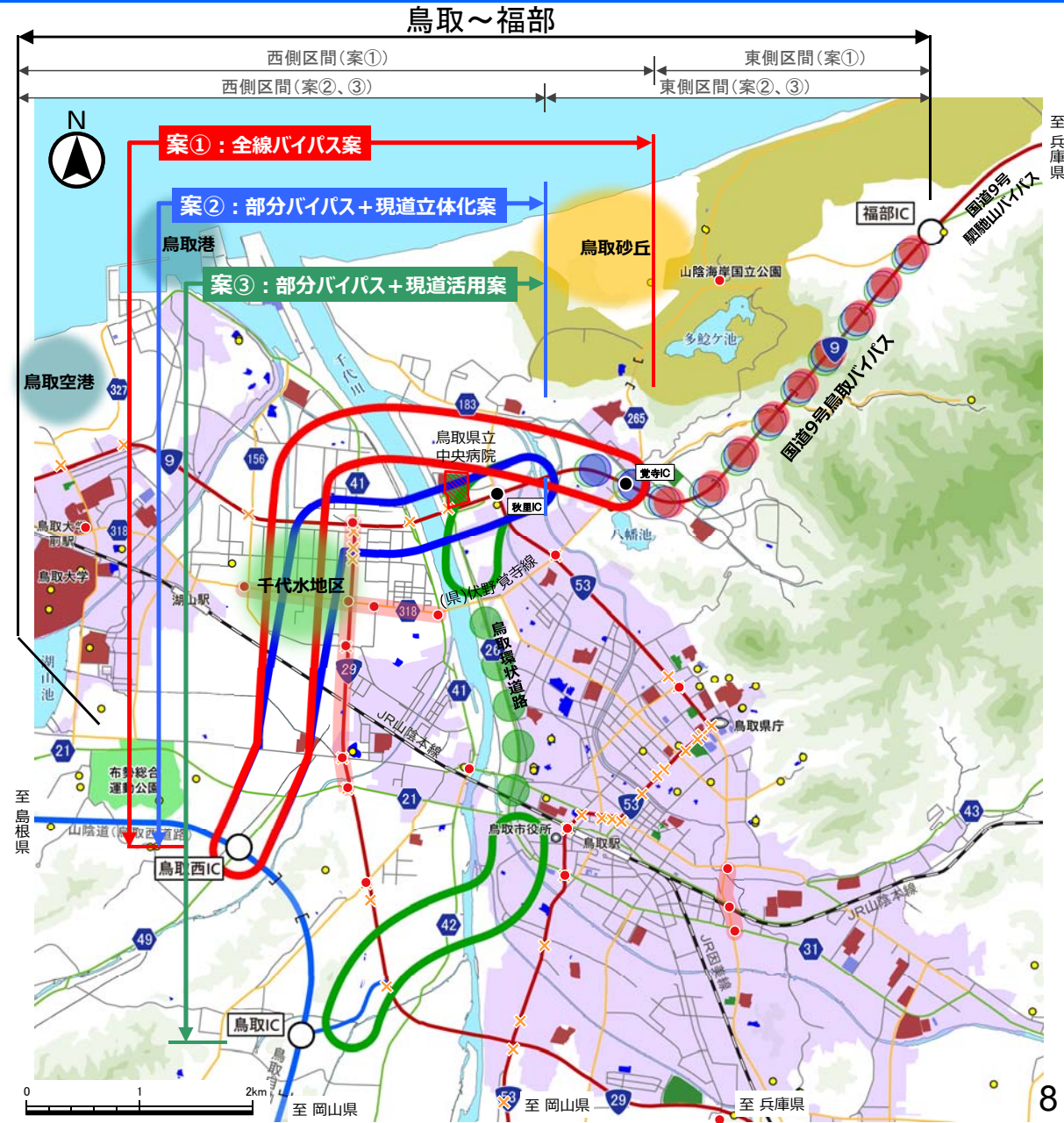
○ : ルート帯(案) ●●●● : 現道活用区間(案)

【案③】 走行性の高い既存道路を活用する 部分バイパス+現道活用案

○ : ルート帯(案) ●●●● : 現道活用区間(案)

凡例 (交通課題箇所)		凡例	
●	主要渋滞箇所	●	役所・支所、官公施設
■	主要渋滞区間	●	学校
×	死傷事故率の高い箇所	●	医療機関
凡例		●	人口集中地区 (H27)
—	高規格幹線道路	●	遺跡・文化財
—	直轄国道	●	神社仏閣・宗教関連施設
—	主要地方道	●	広域防災拠点
—	一般県道	●	海岸・公園
—	その他道路	●	河川・池
—	鉄道	●	物流拠点
		●	交通拠点 (空港・港湾)
		●	主要観光拠点
		■	高次医療施設

※ルート帯(幅500m)に含まれるコントロールポイントは詳細ルートの検討時に配慮する



2. 第2回意見聴取の概要

2. 第2回意見聴取の概要

1) 意見聴取の概要

■調査期間

《アンケート調査》平成31年2月～3月
《ヒアリング調査》平成31年2月～令和元年8月
《ワークショップ》令和元年7月～令和元年9月

■聴取方法

《アンケート調査》
①住民は全戸郵送配布、事業所は郵送配布
②市町役場や道の駅等へのアンケート用紙の設置
③HP上でのWEBアンケート
《ヒアリング調査》
訪問し、対面方式にて実施
《ワークショップ》
地域住民や業界関係者にて意見交換を行い、グループ毎にとりまとめを実施

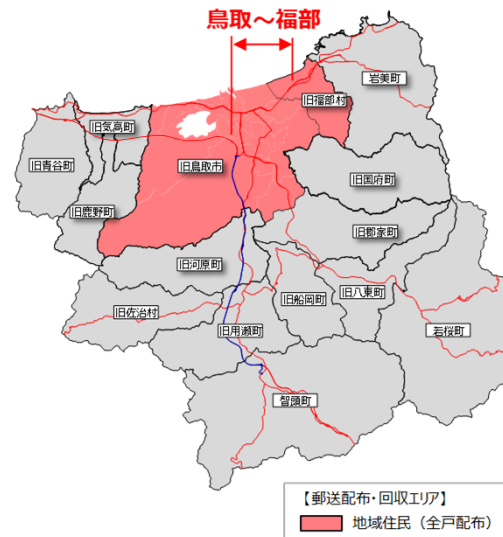
■対象

下表のとおり

住民アンケート: 約70,600世帯		
鳥取市	旧鳥取市	約69,600世帯
	旧福部村	約1,000世帯
事業所アンケート: 約4,200社		
鳥取東部地域(鳥取市、岩美町、若桜町、智頭町、八頭町) 等		
道路利用者アンケート: 21箇所		
常設	観光施設、道の駅、空港	14箇所
	自治体、国土交通省	7箇所
ヒアリング: 51団体		
自治体、商工会議所・商工会、警察署、消防署、港湾、病院、農協、漁協、地元企業・工場、観光協会、タクシー協会、バス協会及びバス事業者、トラック協会、運送業者		
ワークショップ: 89名		
地域住民及び経済等業界団体関係者		

■アンケート配布範囲

【住民アンケート調査対象エリア】



■質問内容

【アンケート質問票】

(ご回答は、『回答はがき』に記載してください)

質問1 今回、3つのルート帯(案)を検討していますが、地域にとって望ましい案を考える際に何が重要とご思いますか？

以下の重視すべき項目①～⑭から、特に重視すべきと思われる項目について、最大3つまで選んでいただき、番号とその理由や内容をお書きください。

- ① 渋滞が緩和できること
- ② 交通事故が起きにくいこと
- ③ 自然災害に伴う通行止め発生時に代替路が確保されること
- ④ 救急医療機関へ早く、確実、安全に搬送できること
- ⑤ 物流時間の短縮や移動時間を読みやすくし、産業活動を支援すること
- ⑥ 農林水産物の生産拠点などから消費地までの時間を短縮し、市場を拡大すること
- ⑦ 高速ICから主要な観光地へのアクセスを向上させ、広域観光を促進すること
- ⑧ 移動の利便性向上により、周遊性が向上すること
- ⑨ 道路沿線の大気質や騒音の影響が少ないこと
- ⑩ 景観への影響が少ないこと
- ⑪ 人口集中地区を極力さけること
- ⑫ 工事中の交通渋滞の影響が少ないこと
- ⑬ 道路の建設に要する費用、維持管理に要する費用が安いこと
- ⑭ その他(上記以外で重視すべき項目についてご自由にお書きください)

質問2 インターチェンジなど周辺からのアクセスを検討する際に、どのようなことに配慮すべきとご思いますか？ご自由にお書きください。

質問3 道路を整備することによる懸念事項(生活環境、自然環境等)がありましたら、ご自由にお書きください。

2. 第2回意見聴取の概要

2) 意見聴取の方法・対象者と回収率

調査種別	対象者	実施期間	回収方法	対象地域・団体等	回収件数	
アンケート	住民	平成31年2月15日 ～3月15日	郵送	鳥取市（旧鳥取市、旧福部村）在住の住民（70,560世帯）	5,471 (回収率:7.8%)	
			WEB	鳥取河川国道事務所のホームページにWEBアンケート掲載	206	
	小計					5,677
	事業所	平成31年2月15日 ～3月15日	郵送	鳥取県内外の企業（4,185事業所）	729 (回収率:17.4%)	
			WEB	鳥取河川国道事務所のホームページにWEBアンケート掲載	12	
	小計					741
	道路利用者	平成31年2月1日 ～3月15日	常設	道の駅、官公庁等にてアンケートを設置（21箇所）	138	
			WEB	鳥取河川国道事務所のホームページにWEBアンケート掲載	92	
		平成31年2月21、23日	インタビュー	道の駅、観光施設にてインタビュー形式による聞き取り調査	475	
		平成31年2月13～14日 平成31年3月1日～3月4日	オープンハウス	鳥取市役所駅南庁舎、イオンモール鳥取北で開催	3	
				オープンハウスへの来場者数 ※回収件数合計には含まず	782	
	小計					708
	合計					7,126
	ヒアリング	関係自治体 及び団体	平成31年2月8日 ～令和元年8月2日	ヒアリング (対面方式)	自治体、商工会議所・商工会、警察署、消防署、港湾、病院、農協、漁協、地元企業・工場、観光協会、タクシー協会、バス協会及びバス事業者、トラック協会、運送業者	51団体
ワークショップ	地域住民、 経済界等関係者	第2回ワークショップ： 令和元年7月27、28日 第3回ワークショップ： 令和元年9月21、22日	グループ毎に 意見のとりまとめ	旧鳥取市・旧福部村地区の代表者（地区代表） ※旧地区代表者を含む	22名／20名 (第2回／第3回)	
				旧鳥取市・旧福部村地区の代表者（一般公募）	9名／8名	
				旧鳥取市・旧福部村地区の代表者（地区推薦）	5名／8名	
				経済団体、観光協会等	13名／12名	
合計					49名／48名	

2. 第2回意見聴取の概要

3) 意見聴取の実施状況 (アンケート調査、ヒアリング調査)

■ 郵送アンケート

※対象地域の住民、事業所へ郵送配布



【アンケート回答はがき】

郵送アンケートは、対象地域の住民、事業所へ郵送配布し、回答はがきを返却していただく方式です。アンケートの回答は、郵送によるため、回答はがきを返却していただく必要があります。

▲アンケート回答はがき

■ 常設アンケート

※道の駅、官公庁等計21箇所に設置



▲設置状況 (とっとり賀露かっこ館)

■ インタビュー調査

※道の駅、観光施設等5箇所で実施



▲実施状況 (道の駅神話の里白うさぎ)

■ ヒアリング調査

※自治体及び団体、事業者等51団体に実施



▲実施状況 (製造業者へのヒアリング)

■ WEBアンケート

※ポータルサイト内でWEBアンケートを実施



▲WEBアンケート画面

■ 意見聴取の広報状況

・ニューズレターによる広報



▲ニューズレター第4号 (新聞折込による配布)

・ポスターによる広報



▲ポスター (アンケート常設箇所に設置)

・自治体HPへのバナー設置



▲鳥取市HP

2. 第2回意見聴取の概要

4) 多様な住民意見を把握するための取組 (オープンハウスの開催)

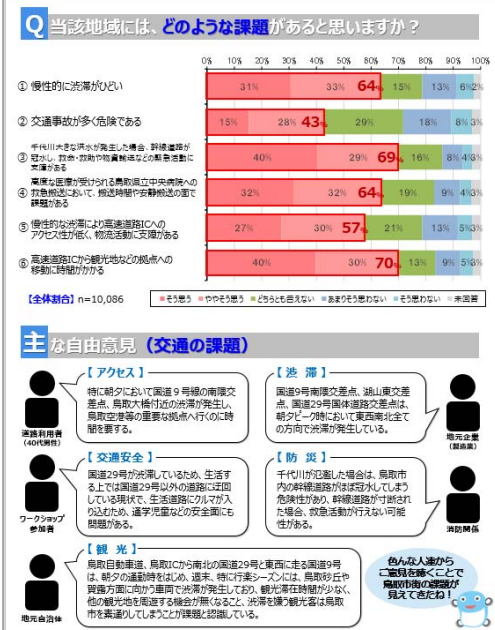
○鳥取～福部に関する取組みへの理解を深めてもらうこと、またアンケート調査の回収率を高めることを目的に、オープンハウスを開催した。(2箇所計6日間開催)

○オープンハウスでは、第1回アンケート調査の結果や第2回アンケート調査の内容(計画検討にあたり重視すべきこと、配慮すべきこと、道路整備による懸念事項)に関わるパネルを展示し、来場者に直接説明を行った。

▼オープンハウスの開催概要

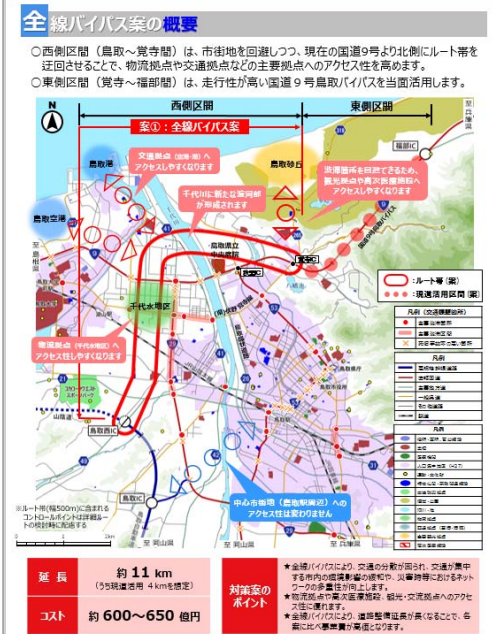
開催場所	開催期間	開催時間	来訪者数	
鳥取市役所駅南庁舎	平成31年2月13日(水)～14日(木) ※2日間	10:00～17:00	75名	合計 782名
イオンモール鳥取北	平成31年3月1日(金)～4日(月) ※4日間		707名	

“第1回の意見聴取が終了しました”
皆さまから頂いたご意見を紹介します!



(第1回アンケート結果)

対策案①: 市街地を回避し、主要拠点を連絡する
全線バイパス案



(各ルート帯案の説明)

“様々な視点で考えてみよう”
道路整備による光と影



(道路整備による光と影)



(鳥取市役所駅南庁舎)



(イオンモール鳥取北)

▲オープンハウスの様子

▲オープンハウスでの展示パネル(一部)

2. 第2回意見聴取の概要

4) 多様な住民意見を把握するための取組（ワークショップの開催）

○アンケートでは把握できない具体的な意見の把握に加え、参加者同士の意見交換により理解を深めることを目的に、ワークショップを2回に分けて開催した。

○2回のワークショップでは、それぞれ「インターチェンジなどアクセスを検討する際の配慮すべき点」、「各ルート帯(案)が整備される場合、『不安に思うこと』と『不安を解消・低減するアイデア』」の2つのテーマについて意見交換を行い、具体的な意見の把握を行った。

▼ワークショップの開催概要

名称	開催場所	開催日	テーマ	参加者数	
第2回ワークショップ	鳥取市福祉文化会館 3階第1・2会議室	令和元年7月27日(土)、28日(日) ※2日間	インターチェンジなどアクセスを検討する際の配慮すべき点	49名	延べ 97名
第3回ワークショップ	鳥取市福祉文化会館 2階会議室	令和元年9月21日(土)、22日(日) ※2日間	各ルート帯(案)が整備される場合、『不安に思うこと』と『不安を解消・低減するアイデア』	48名	



(グループワークと結果紹介の様子)



(グループワークと結果紹介の様子)



(とりまとめ結果(ワークショップだより Vol.2))

▲第2回ワークショップ



(とりまとめ結果(ワークショップだより Vol.3))

▲第3回ワークショップ

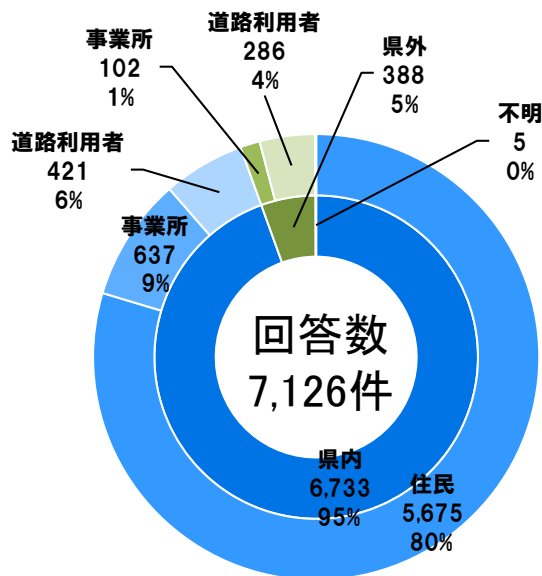
3. 第2回意見聴取の結果

3. 第2回意見聴取の結果

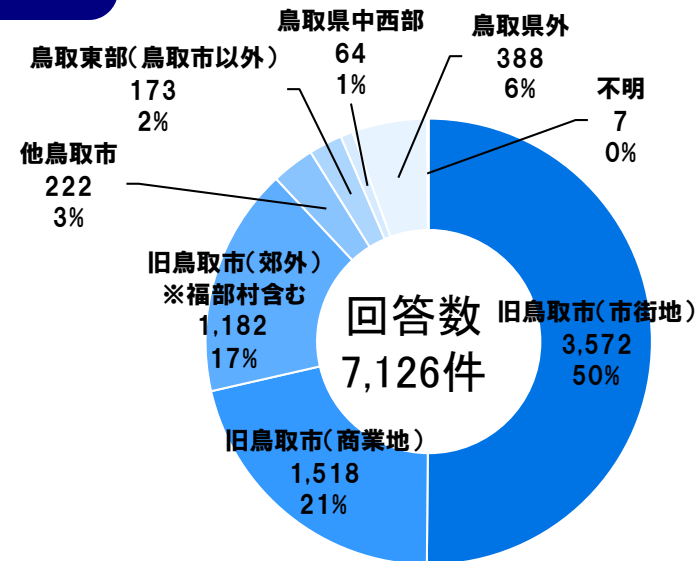
1) 属性

- 住民約5,700人、道路利用者約700人、事業所約700社から合計約7,100件の意見聴取を実施。
- 回答者のうち、鳥取市からの回答が約9割を占める。
- 回答者の性別は約8割が男性であり、年代としては50代までが約4割を占める。

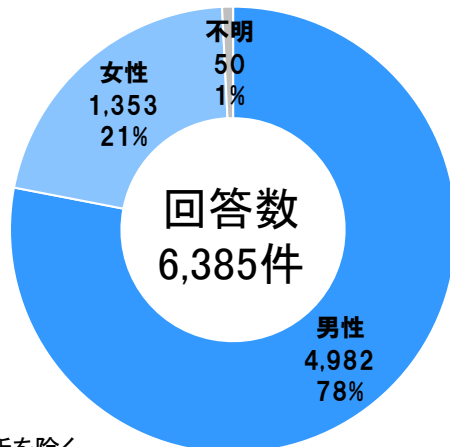
アンケート回収状況



住所

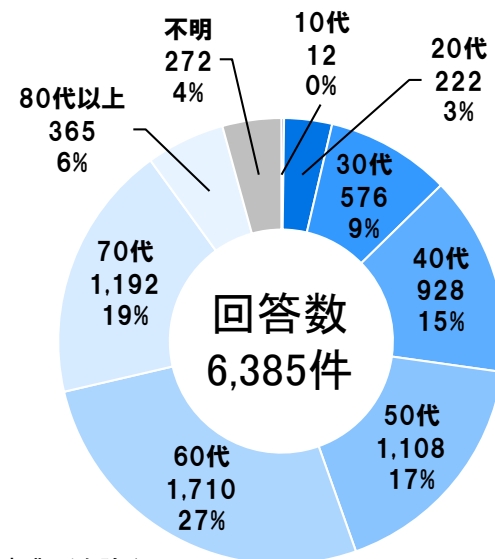


性別



※事業所を除く

年代



※事業所を除く

3. 第2回意見聴取の結果

2) ルート帯(案)を検討する際に特に重視すべき項目(アンケート結果)

- ルート帯(案)を検討する際に重視すべきだと思う事項として、回答属性に共通して「①渋滞が緩和できること」、「②交通事故が起きにくいこと」、「③自然災害に伴う通行止め発生時に代替路が確保されること」、「⑦高速ICから主要な観光地へのアクセスを向上させ、広域観光を促進すること」について重視する声が多い。
- 上記に加え、事業所は「⑤物流時間の短縮や移動時間を読みやすくし、産業活動を支援すること」も重視する声が多い傾向が見られる。
- 「⑭その他」の項目は少なく、アンケートで設定した項目により、特に重視する項目を確認することができる。

質問1 今回、3つのルート帯(案)を検討していますが、地域にとって望ましい案を考える際に何が重要と思いますか？
以下の重視すべき項目①～⑭から、特に重視すべきと思われる項目について最大3つまで選んでいただき、番号とその理由や内容をお書きください。

回答属性別

特に重視すべきと思われる項目		全体 (回答数：6,742件)	回答属性別		
			住民 (回答数：5,362件)	事業所 (回答数：682件)	道路利用者 (回答数：698件)
道路整備による 効果・改善点	① 渋滞が緩和できること (4,497件)	66.7%	65.2%	72.6%	72.8%
	② 交通事故が起きにくいこと (2,071件)	30.7%	31.4%	33.6%	23.1%
	③ 自然災害に伴う通行止め発生時に代替路が確保されること (2,430件)	36.0%	37.2%	38.0%	25.2%
	④ 救急医療機関へ早く、確実、安全に搬送できること (1,386件)	20.6%	20.8%	18.3%	20.8%
	⑤ 物流時間の短縮や移動時間を読みやすくし、産業活動を支援すること (1,209件)	17.9%	16.7%	30.2%	15.6%
	⑥ 農林水産物の生産拠点などから消費地までの時間を短縮し、市場を拡大すること (216件)	3.2%	3.0%	4.5%	3.6%
	⑦ 高速ICから主要な観光地へのアクセスを向上させ、広域観光を促進すること (1,973件)	29.3%	29.6%	21.1%	34.4%
	⑧ 移動の利便性向上により、周遊性が向上すること (1,221件)	18.1%	18.2%	12.5%	22.6%
配慮すべき事項	⑨ 道路沿線の大気質や騒音の影響が少ないこと (389件)	5.8%	6.3%	3.5%	3.6%
	⑩ 景観への影響が少ないこと (257件)	3.8%	3.8%	2.6%	5.2%
	⑪ 人口集中地区を極力さけること (717件)	10.6%	11.3%	8.7%	7.7%
	⑫ 工事中の交通渋滞の影響が少ないこと (614件)	9.1%	8.9%	11.3%	8.7%
	⑬ 道路の建設に要する費用、維持管理に要する費用が安いこと (1,281件)	19.0%	21.1%	12.6%	9.5%
	⑭ その他 (159件)	2.4%	2.2%	2.1%	3.9%

※質問1に回答した人を対象に集計しているため、全回答者数7,126人と一致しない

3. 第2回意見聴取の結果

2) ルート帯(案)を検討する際に特に重視すべき項目(アンケート自由意見とヒアリング結果)

分類	理由や内容
<p>① 渋滞が緩和できること 【1,885件】</p>	<p>朝夕の通勤時間帯、及びGWなどの長期休日期間の渋滞が日常生活に影響している。(住民/旧鳥取市(商業地)/50代男性)</p> <p>鳥取では車で通勤者が多く、朝・夕方に発生する交通渋滞によって、時間の浪費や事故の原因となっている。(事業所/旧鳥取市(市街地)/サービス業)</p> <p>ラッシュ時、週末において渋滞がひどい。大型連休時は、移動すら困難となる。(道路利用者/旧鳥取市(商業地)/30代男性)</p> <p>渋滞の緩和が出来れば、救急医療とか物流、大気・騒音等、その他の項目についても効果が出ると思う。工事中の渋滞、建設費も大事だとは思いますが、まずは渋滞緩和が大事。(ヒアリング/商工会議所・商工会)</p> <p>特に町中の渋滞緩和をお願いしたい。路線バスの定時性が向上すると会社としてありがたい。(ヒアリング/バス事業者)</p>
<p>② 交通事故が起きにくいこと 【757件】</p>	<p>交通事故が起これば交通渋滞が発生することになり通行の支障となる。人的、物的、時間的なロスが発生する。(住民/旧鳥取市(市街地)/60代男性)</p> <p>鳥取では、年齢、性別を問わず車が必要であり、そのため交通事故のリスクを下げることは、安心安全な生活に直結しているため。(道路利用者/旧鳥取市(市街地)/40代男性)</p> <p>交通事故が起きにくいことは、日常生活するうえで、とても安心なことである。(住民/旧鳥取市(郊外)/40代男性)</p> <p>交通事故もないようにしてほしい。事故が起きると、何時間も通行できなくなる。(ヒアリング/運送業者)</p>
<p>③ 自然災害に伴う通行止め発生時に代替路が確保されること 【1,040件】</p>	<p>近年の自然災害の多さを考えると、千代川が氾濫してしまうのも全くないことでは無い。広範囲で浸水することを考えたら、絶対に代替路は必要。(住民/旧鳥取市(市街地)/40代女性)</p> <p>事故や自然災害、積雪などで渋滞が発生し、身動きが取れなくなることは避けたい。代替路確保は必要と思われる。(道路利用者/鳥取東部(鳥取市外)/40代男性)</p> <p>災害時の迂回路が増えるとありがたい。(ヒアリング/地元企業・工場)</p> <p>代替路のない一本道はトラック事業者は困る。(ヒアリング/トラック協会)</p>
<p>④ 救急医療機関へ早く、確実、安全に搬送できること 【493件】</p>	<p>渋滞による救急搬送の時間が数分でも短縮できれば、定時性や安静搬送の課題は解消できる。(住民/旧鳥取市(市街地)/60代男性)</p> <p>地元では大きな病院がないのでそれを考えると救急時の搬送の重要性が高いと思うから。(道路利用者/鳥取県外/40代男性)</p> <p>病院間の搬送として豊岡から米子まで移動するので、病院間のアクセスが良いといい。(ヒアリング/病院)</p> <p>国道9号経由で県立中央病院への搬送が多い。夜間の救急で中央病院、市立病院などへ搬送がし易くなる。(ヒアリング/消防署)</p>

3. 第2回意見聴取の結果

2) ルート帯(案)を検討する際に特に重視すべき項目(アンケート自由意見とヒアリング結果)

分類	理由や内容
<p>⑤ 物流時間の短縮や移動時間を読みやすくし、産業活動を支援すること 【492件】</p>	<p>国道9号・29号の信号により、アクセス時間が増える事は物流に悪影響。(事業所/旧鳥取市(商業地)/運輸業・郵便業)</p> <p>他県との行き来をしやすくし、物流・コスト面・他県企業との取引を容易にしたい。(事業所/旧鳥取市(郊外)/製造業)</p> <p>物流だけでなく、商工事業者にとっても移動時間が読みやすくなるのは大きい。(事業所/鳥取東部(鳥取市以外)/卸・小売業)</p> <p>物流時間の短縮や移動時間を読みやすくし、産業活動を支援することが重要。ツインポートへのアクセスが利用促進にもつながることに期待する。(ヒアリング/商工会議所・商工会)</p>
<p>⑥ 農林水産物の生産拠点などから消費地までの時間を短縮し、市場を拡大すること 【80件】</p>	<p>鳥取豊岡宮津自動車の沿線は、魚類や農作物の産地が多く、流通の機能を高めることが必要である。(住民/旧鳥取市(市街地)/60代男性)</p> <p>大都市からのアクセスを向上させることにより、農林水産物の取扱量が増加することが見込まれ、経済的な発展が期待できる。(事業所/鳥取東部(鳥取市以外)/卸・小売業)</p>
<p>⑦ 高速ICから主要な観光地へのアクセスを向上させ、広域観光を促進すること 【830件】</p>	<p>鳥取IC、鳥取西ICから鳥取砂丘への道は、一般道で信号も多くアクセスが悪い。(住民/旧鳥取市(市街地)/60代男性)</p> <p>観光地への来訪者にとって、アクセス性や定時性、快適性は欠かせません。広域観光を命脈とする鳥取県にとり、重要な視点です。(道路利用者/旧鳥取市(市街地)/50代男性)</p> <p>広域観光を促進することにより、県外・県内の人の動きが活発になるため。(住民/旧鳥取市(市街地)/50代男性)</p> <p>広域観光の推進を期待している。費用面も大事だが、砂丘へ行きやすい道路が必要と思う。(ヒアリング/観光協会)</p>
<p>⑧ 移動の利便性向上により、周遊性が向上すること 【413件】</p>	<p>周遊性が向上することにより、観光促進につながると考える。(住民/旧鳥取市(市街地)/70代男性)</p> <p>観光地や周辺の店に立ち寄る時間が増え、経済効果につながる。(道路利用者/鳥取県外/70代男性)</p> <p>鳥取港を利用するクルーズ船のオプションツアーを検討する上でも周遊性の向上は重要。西道路開通で周遊性は向上したものの、中部までが限界。朝～夕方までの時間帯で可能な移動時間は1～1.5時間程度。また、境港に入港するクルーズの主なオプションツアー先は、出雲大社方面の西側が主体で、鳥取方面(砂丘方面)のツアーもあるが滞在時間が限られるため、人気は低い状況にある。(ヒアリング/港湾)</p>

3. 第2回意見聴取の結果

2) ルート帯(案)を検討する際に特に重視すべき項目(アンケート自由意見とヒアリング結果)

分類	理由や内容
⑨ 道路沿線の大気質や騒音の影響が少ないこと 【147件】	<p>新道路建設に伴う混雑(既存道)交通事故、騒音等、住環境の悪化は極力抑制する必要がある。(住民/旧鳥取市(商業地)/70代男性)</p> <p>車両の通行量が増加すると、排気ガス、騒音の問題は避けられない。従って当然配慮の上の計画は望ましい事と思う。(事業所/旧鳥取市(商業地)/建設業)</p>
⑩ 景観への影響が少ないこと 【98件】	<p>鳥取の景観の美しさや貴重さを十分に認識し、景観への影響が少ないことが望ましい。(住民/旧鳥取市(郊外)/50代男性)</p> <p>美しい山陰海岸国立公園の景観を壊さないようにして下さい。(事業所/旧鳥取市(商業地)/学術研究, 専門・技術サービス業)</p>
⑪ 人口集中地区を極力さけること 【297件】	<p>人口集中地区を避けることで郊外への利便性を上げるべきだと思う。(住民/旧鳥取市(市街地)/40代男性)</p> <p>交通事故防止の為に、人口集中地区は極力さけるべき。(住民/旧鳥取市(商業地)/60代男性)</p> <p>住民の環境保護や移転費用などを考慮して、人口集中地区は避けるべきである。(道路利用者/旧鳥取市(商業地)/60代男性)</p>
⑫ 工事中の交通渋滞の影響が少ないこと 【189件】	<p>市街地であり、現状でも時間帯・曜日によってはかなりの混雑を感じる。工事によって渋滞悪化されては本末転倒。仕方ない場面はあるかもしれないが最低限になるよう工夫してほしい。(道路利用者/旧鳥取市(市街地)/40代男性)</p> <p>一時の規制は仕方ないと思うが、一日中何年も続くような工事渋滞は市民生活に影響が大きいと思う。(ヒアリング/農協)</p>
⑬ 道路の建設に要する費用、維持管理に要する費用が安いこと 【634件】	<p>今後の少子化等、人口の減少を考えやはり建設・維持管理に要する費用が安いことが大事です。(住民/旧鳥取市(郊外)/60代男性)</p> <p>建設費用、維持管理費用は、どの案であっても低くおさえるよう検討していただきたい。費用が安い案に決めるというのではなく、選んだ案の中で経費をおさえる方法を模索していただきたい。(住民/旧鳥取市(郊外)/60代男性)</p> <p>維持管理費が安くなるような工法の利用を重視すべきだと思います。(住民/旧鳥取市(商業地)/50代男性)</p> <p>市街地を迂回しないといけないのである程度の建設費用は仕方ないものの、維持管理費用も含めて全体的な費用を抑えてほしいと思うから。(道路利用者/旧鳥取市(郊外)/20代男性)</p>
⑭ その他の主な意見 【156件】	<p>可能な限り、早期に整備することが必要であり重要。(住民/旧鳥取市(市街地)/50代男性)</p> <p>都市中心部からのアクセス性が良いこと。(住民/旧鳥取市(市街地)/50代男性)</p> <p>中心市街地の活性化や市街地拡大の防止。(住民/旧鳥取市(市街地)/40代男性)</p> <p>一車線で追い越しできない道路が多いので車線を多めに作ってほしい。(道路利用者/他鳥取市/60代男性)</p>

3. 第2回意見聴取の結果

2) ルート帯(案)を検討する際に特に重視すべき項目(自治体ヒアリング)

○自治体からは、「渋滞緩和」や「事故削減」、「物流の効率化による地域経済の活性化」、「農林水産業の持続的発展」、「観光周遊性の向上」、「救急医療活動の支援」、「災害時の代替路の確保」などに関する意見が寄せられている。

自治体	主な意見(重視すべき事項)
鳥取県	<ul style="list-style-type: none">○路線バスにおいて、渋滞緩和は外せない項目で定時性が重要。国道9号を利用するバス路線は、ループ麒麟獅子、空港連絡、イオン北店行き。湖山街道沿線にも主要な路線があるが、渋滞緩和をお願いしたい。○境、網代、賀露から関西・関東圏への輸送は、指定された時間に届ける必要があるため、渋滞が解消されれば市場拡大に繋がっていくものと思われる。○鳥取砂丘の観光客は年間約100万人で、県外観光客の8割は中国・近畿方面で、車かバス利用がほとんどである。ゴールデンウィーク等大型連休時の渋滞対策が課題となっている。○鳥取市内では水害、地震が主な災害と想定され、災害時の代替路という点では、案1・2が望ましい。
鳥取市	<ul style="list-style-type: none">○渋滞緩和による公共交通機関の定時性の確保が進めば、マイカー通勤から公共交通機関への切り替えが促進される。また、市内の事業所は労働力人口が減少する中、従業員確保に苦慮している。求職者にとっても、通勤時間の長短が就業先を決める要因の一つになることから、市内の交通渋滞の緩和が必要不可欠である。○事故により、あらゆる道路機能が止まり、多大な影響を受けている。○近年は想定外の豪雨や局地的・継続的な降雨など、これまで経験したことがない自然現象による災害発生が頻繁に起こっている。そうした中、通行止めなどが発生した場合でも、孤立集落の発生リスクの回避や医療機関への搬送を可能とするなど、代替路の確保が必要と考える。○三次救急を担う鳥取県立中央病院への搬送時間が短縮され、また走行性の向上による傷病者への負担が軽減されると考えられる。○物流時間の短縮による商圈の大幅な拡大(岡山北部・倉吉・連携中枢都市圏域など)、店舗立地条件を満たすエリアが拡大することによる出店者の増加などによる地域経済の活性化が期待できる。昨年7月豪雨では、鳥取自動車道が遮断されたため、鳥取県東部、鳥取市内の物流に多大な影響が発生。企業誘致や産業活動には物流が確保されることが重要であるため(全線バイパス化のルート案は拠点へのアクセス性に優れる)適切なICの配置による拠点や主要交通インフラへのアクセス性を高めることが必要。○農業生産者の所得向上のためには、生産量の増加と販路拡大がポイントであり、そのためには、物流を支えるインフラの整備が必要となる。また、今後の林業振興においても、木材搬出の更なる活性化が必要であり、十分な搬出ルートの確保が求められる。水産業においても、鳥取港への集荷から各取引先への輸送工程の効率化は重要課題である。移動時間の短縮、出荷先の増加等を可能とする南北線の整備は、本市の第一次産業の持続的発展にとって必須事項である。○観光客の移動時間が短縮され、観光地への滞在時間(周遊時間)の延長につながる。○5月の山陰道鳥取西道路の全線開通と併せ、鳥取県東部、但馬、京都北部の各地方生活圏を結ぶ山陰近畿自動車道の整備の進展によるアクセスの向上により、連携中枢都市圏域だけでなく、岡山北部、倉吉方向においてますます交流人口の増加が図られる。

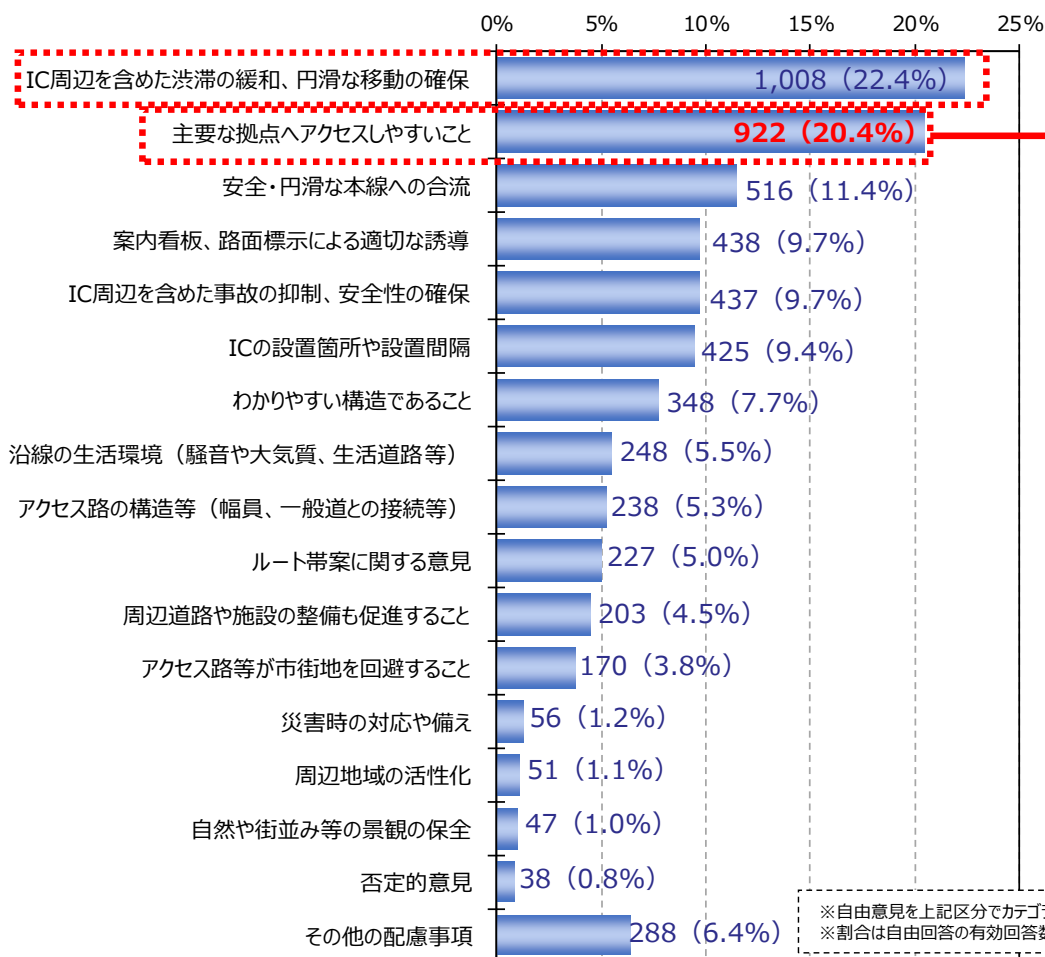
3. 第2回意見聴取の結果

3) ICなど周辺からのアクセスを検討する際に配慮すべき事項 (アンケート自由意見とヒアリング結果)

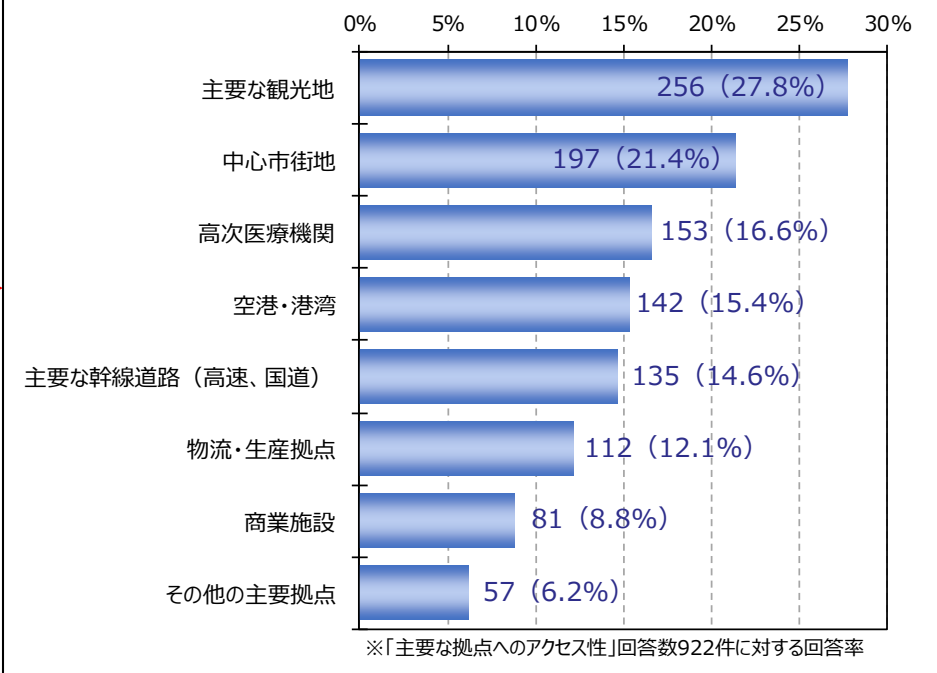
- アクセス検討時に配慮すべき事項は「IC周辺を含めた渋滞の緩和、円滑な移動の確保」、「主要な拠点へアクセスしやすいこと」などの意見が多く寄せられている。
- 「主要な拠点」の内訳は主要な観光地が最も多く、次いで中心市街地、高次医療機関、空港・港湾、主要な幹線道路、物流・生産拠点、商業施設となっている。

質問2 インターチェンジなど周辺からのアクセスを検討する際に、どのようなことに配慮すべきと思いますか？ご自由にお書きください。

分類別の回答件数



主要な拠点へのアクセス性(内訳)



3. 第2回意見聴取の結果

3) ICなど周辺からのアクセスを検討する際に配慮すべき事項 (アンケート自由意見とヒアリング結果)

分類	主な意見
IC周辺を含めた渋滞の緩和、円滑な移動の確保【1,008件】	<p>鳥取空港、観光地への利便性を確保するとともに、交通渋滞の緩和が必要。(住民/旧鳥取市(商業地)/50代男性)</p> <p>毎朝、休日の国道29号の渋滞を緩和して欲しい。(住民/旧鳥取市(商業地)/40代女性)</p> <p>国道29号、千代水地区の交通渋滞の緩和に配慮。(住民/旧鳥取市(商業地)/40代男性)</p> <p>インターチェンジ周辺の交通渋滞が起こらないよう配慮すること。(住民/旧鳥取市(市街地)/50代男性)</p> <p>渋滞緩和という観点でICを検討してほしい。ICをつくることで新たな渋滞を発生させないように配慮してほしい。(ヒアリング/自治体)</p>
主要な拠点へアクセスしやすいこと【922件】	<p>鳥取砂丘が近いので、観光に来られた方がインターに乗るのに、時間がかからなく、スムーズに自動車道に乗れる様工夫して欲しい。(住民/旧鳥取市(市街地)/40代男性)</p> <p>中心市街地活性化の観点から、鳥取駅周辺、とりぎん文化会館など中心市街地の主要施設へのアクセスを考慮して欲しい。(住民/旧鳥取市(郊外)/50代男性)</p> <p>インターは病院に近いところが良いと思います。高齢社会なので便利が良い場所がいいです。(道路利用者/鳥取県外/70代女性)</p> <p>物流拠点へのアクセス性が向上することは、狭い道を大型トラックがすりぬけることを少なくし、安全性が増すと思う。仕入れ等、物流に頼っているので、アクセスの向上は、その意味でも企業にはよい。(事業所/旧鳥取市(商業地)/サービス業)</p> <p>周遊人口を更に増加させるため、鳥取空港・鳥取駅など交通結節点への配慮。(ヒアリング/自治体)</p> <p>観光地である鳥取砂丘、空港・港、物流拠点の千代水、中心市街地である鳥取駅へのアクセスのためのICが必要と思う。(ヒアリング/商工会議所・商工会)</p>
安全・円滑な本線への合流【516件】	<p>高速道へスムーズな合流が出来る工夫が必要。(道路利用者/他鳥取市/60代男性)</p> <p>高齢者でも、わかり易く、安全に合流出来る様にして欲しい。(住民/旧鳥取市(市街地)/40代女性)</p>
案内看板、路面標示による適切な誘導【438件】	<p>最近のインターチェンジは乗り降りが複雑。わかりやすい看板、サインをお願いしたい。(住民/旧鳥取市(市街地)/40代男性)</p> <p>インターチェンジから観光地までスムーズに行けるよう分かりやすい案内があると良いと思います。(住民/旧鳥取市(市街地)/30代女性)</p>
IC周辺を含めた事故の抑制、安全性の確保【437件】	<p>交通の便がよくなれば、車の台数が増えるので事故の可能性が増えるので配慮すべきだと思う。(住民/旧鳥取市(商業地)/40代女性)</p> <p>インターチェンジ付近の交通事故。(住民/旧鳥取市(市街地)/60代男性)</p>
ICの設置箇所や設置間隔【425件】	<p>周辺一般道からのアクセスを良くして、簡単に主要道へ合流することができることに配慮してもらいたい。(住民/旧鳥取市(市街地)/50代男性)</p> <p>インターチェンジ周辺の市町村の人が利用しやすいような位置に設置してほしい。(住民/旧鳥取市(市街地)/70代男性)</p>

3. 第2回意見聴取の結果

3) ICなど周辺からのアクセスを検討する際に配慮すべき事項 (アンケート自由意見とヒアリング結果)

分類	主な意見
わかりやすい構造であること【348件】	現在、交通が集中している箇所は避けまた、複雑でわかりにくい構造にならないよう シンプルな構造 としてほしい。(住民/旧鳥取市(郊外)/50代男性)
	高齢社会だから出来るだけ 分かりやすいアクセス方法(手段) を考慮すべき。(住民/旧鳥取市(商業地)/70代男性)
沿線の生活環境【248件】	排気ガスや騒音・振動等に対する沿道環境対策 を十分に行う。(事業所/他鳥取市/建設業)
	インターチェンジ付近の 住民の生活に極力支障が出ないように配慮 すべきと思います。(住民/旧鳥取市(商業地)/40代男性)
アクセス路の構造等【238件】	高架構造等により、平面交差は少なくする。(住民/旧鳥取市(市街地)/60代男性)
	一般道へ合流するための車列がこの道路まで影響しないようランプウェイには工夫が必要、また、一般道の信号待ちが長くないような形状を考えていただきたい。(住民/旧鳥取市(商業地)/40代男性)
周辺道路や施設の整備も促進すること【203件】	インターチェンジの 出入口周辺の道路整備が必要 である。(住民/旧鳥取市(市街地)/50代男性)
	大型車が止まれるガソリンスタンドや、休憩・休息の取れる施設 がほしい。(事業所/鳥取県外/運輸業・郵便業)
アクセス路等が市街地を回避すること【170件】	人口集中地区を極力避ける 。(住民/旧鳥取市(商業地)/60代男性)
	住宅地は避けた方がよい 。(住民/旧鳥取市(市街地)/30代男性)
災害時の対応や備え【56件】	災害に強い事はもちろん、 災害時に物流の拠点 になるよう整備する。(住民/旧鳥取市(商業地)/60代男性)
	災害時には県外から支援物資をいただくことになるが、それらを県内に流通させる ため、他の幹線道路とスムーズに接続されることが必要。(ヒアリング/自治体)
周辺地域の活性化【51件】	県内外から多くの観光客が来た時に 宿泊する施設が少ない ので、検討してほしい。(住民/旧鳥取市(郊外)/50代女性)
	アクセスが良くなれば企業誘致もしやすくなる為、 誘致用地(工業団地)の整備 も行うべき。(事業所/旧鳥取市(郊外)/建設業)
自然や街並みなどの景観の保全【47件】	景観に配慮をしながら、利便性の良い機能 を望みたい。(住民/旧鳥取市(郊外)/60代男性)
	町並みを分断しないこと。生活道路は残すこと。 景観を壊さないこと 。(住民/旧鳥取市(市街地)/80代男性)
否定的意見【38件】	人が少ないし、あまり車も走らないので、道路ばかり作らなくてもよい。(住民/旧鳥取市(市街地)/40代男性)
その他配慮事項【288件】	建設に要する費用が安いこと。(住民/旧鳥取市(商業地)/60代男性)
	工期が長期間とにならない様にする。完成を早くする。(住民/旧鳥取市(郊外)/60代男性)
	地域住民から十分な意見を聞き、反映出来ればと思います。(住民/旧鳥取市(商業地)/60代男性)
	なるべく既存するインフラを最大限活用する事が望ましいと思う。(住民/旧鳥取市(市街地)/年齢不詳男性)

3. 第2回意見聴取の結果

4) 道路を整備することによる懸念事項（アンケート自由意見とヒアリング結果）

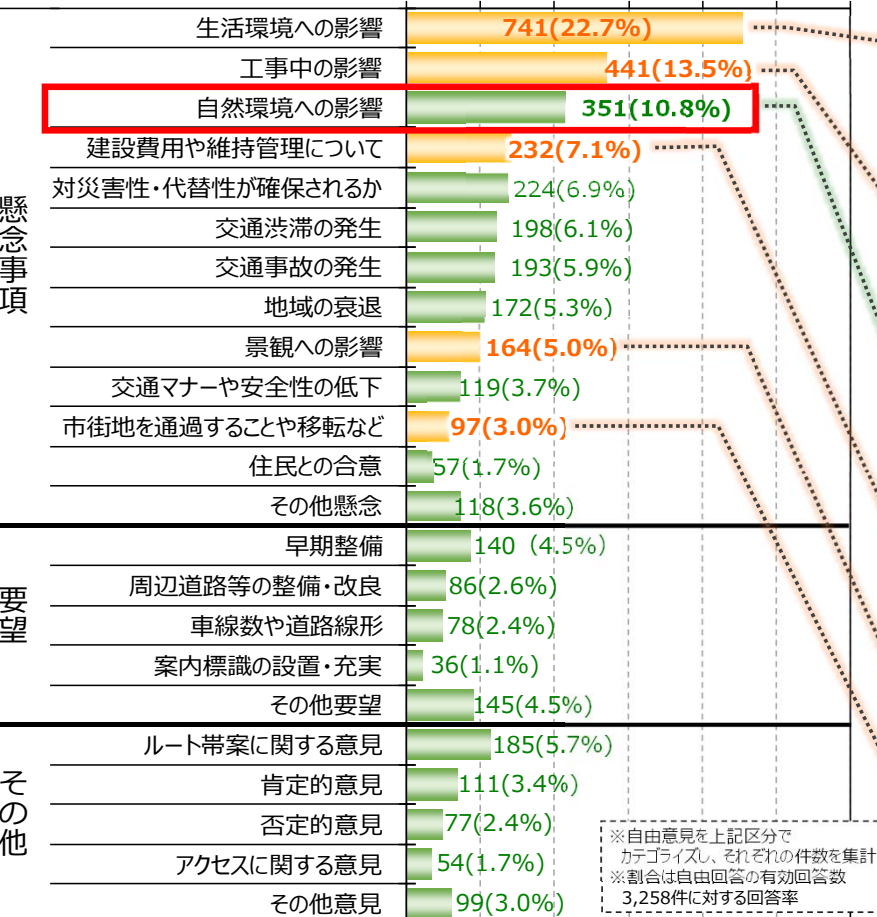
○ルート帯(案)を検討する際に重視すべき項目(配慮すべき事項)に設定している「生活環境への影響」や「工事中の影響」、「費用や維持管理について」に関する意見が多く寄せられている。

○上記以外の意見としては、「自然環境への影響」に関する意見が多く、全体でも3番目に位置している。

質問3 道路を整備することによる懸念事項(生活環境、自然環境等)がありましたら、ご自由にお書きください。

分類別の回答件数

0% 5% 10% 15% 20% 25% 30%



※自由意見を上記区分で
カテゴライズし、それぞれの件数を集計
※割合は自由回答の有効回答数
3,258件に対する回答率

分類	『重視すべき項目（配慮すべき事項）』と『自然環境への影響』の主な意見
生活環境への影響 【741件】	周辺の騒音とか振動に気を付けてもらいたい。完成してから問題が出ない様をお願いします。 (住民/旧鳥取市(市街地)/70代女性)
	沿線が騒音や排ガスになるべく晒されない配慮はもちろんながら、高架になる場合は周辺の日照についても特段の配慮が必要と思う。(住民/旧鳥取市(市街地)/50代男性)
	道路が出来たことにより、地域が分断されないようにしてほしい。 (住民/旧鳥取市(郊外)/60代男性)
工事中の影響 【441件】	住宅地などの生活道路への車の流入も想定される。(ICに入る・出るために近道を利用する車など)排気ガス・騒音・事故対策が必要。(住民/旧鳥取市(市街地)/40代男性)
	整備中の工事期間に渋滞等発生し、産業や観光振興に影響が出ないようにしてほしい。 (住民/旧鳥取市(市街地)/60代女性)
自然環境への影響 【351件】	工事用の車両も多くなるので、交通事故のないように対策をしっかりと行ってほしい。(住民/旧鳥取市(市街地)/年齢不詳男性)
	道路整備による自然環境の破壊が心配。(住民/旧鳥取市(市街地)/30代男性)
費用や維持管理 について 【232件】	自然環境が鳥取の良さの一つなので、道路を作るために自然破壊し、動植物への影響がないようにしてほしい。(住民/旧鳥取市(市街地)/50代女性)
	千代川に新しい橋を建設するのであれば自然環境、生物の保護等に十分留意してほしい。 (住民/旧鳥取市(市街地)/80代男性)
景観への影響 【164件】	建設費が安い事は大切だが、一番大切なのは、地域のため、利用者のためになること。良い道路となるよう考えてほしい。(住民/旧鳥取市(市街地)/50代男性)
	高速道路の整備により便利になるとは思いますが、建設後、長期にわたる維持管理には、小さな県・市としては不安を覚えます。(住民/旧鳥取市(商業地)/60代女性)
市街地を通過すること や移転など【97件】	海あり、山あり、田畑ありで、とても自然に恵まれた地域であるので、この田舎の景観は維持してほしい。(住民/旧鳥取市(市街地)/60代女性)
	人口集中地区(住宅地区)は避けたルートが望ましい。事務所の移転は致しかたないが、住宅家屋の移転は極力少なく。(事業所/旧鳥取市(市街地)/学術研究、専門・技術サービス業)

※ 質問1における「重視すべき項目（配慮すべき事項）」

3. 第2回意見聴取の結果

4) 道路を整備することによる懸念事項（アンケート自由意見とヒアリング結果）

分類	『重視すべき項目（配慮すべき事項）以外』の主な意見
対災害性・代替性が確保されるか【224件】	千代川より、高さは十分取って欲しい。 災害に遭わない様な構造 にして欲しい。（住民／旧鳥取市(郊外)／70代男性） 災害時に使用できない道路では意味がない。とにかく、 災害に強い道路になるかが不安 。（住民／旧鳥取市(市街地)／20代男性）
交通事故の発生【198件】	交通事故が起きにくい道路 にしてほしい。交通事故が増えることが心配。（住民／旧鳥取市(市街地)／60代男性） 交通量増加、平均速度上昇による交通事故の増加 。（住民／旧鳥取市(市街地)／50代男性）
渋滞の発生【193件】	逆に交通量が増えて、 渋滞が起り易くはならないか 。GW、冬の積雪時、住民の普通の移動さえ大変な時がある。（住民／旧鳥取市(市街地)／60代女性） 新たな交通渋滞（交通集中）を発生させないもの としてもらいたい。（住民／旧鳥取市(市街地)／40代男性）
地域の衰退【172件】	新たな道路整備により、 旧道となる路線に立地する商店等への経営悪化 が懸念される。（住民／旧鳥取市(郊外)／50代男性） 道路ができる事により、逆に 交通量が減ってしまう可能性のある地域の空洞化 が懸念される（事業所／鳥取東部(鳥取市以外)／卸・小売業）
交通マナーや安全性の低下【119件】	整備による交通の円滑化により スピードが向上する一方で安全性の欠如 に向かうおそれ。（住民／旧鳥取市(商業地)／50代男性） 現在国道9号を走っている 長距離トラック等が生活道路に使っている道路を走るようになるのは心配 。（住民／旧鳥取市(市街地)／年齢不詳女性）
住民との合意【57件】	ルート帯整備案が、ほぼ確定した時点においては、 関係する地域、住民への説明会 を早期に開催し、わかりやすい言葉で詳細を説明し、理解・納得してもらえるまで、何度も何度も丁寧に対応して欲しいと思います。（住民／旧鳥取市(郊外)・70代男性）
その他懸念【118件】	立体化により、複雑になると、 運転しにくい場面もある ので、 わかりやすく表示案内 してほしい。（住民／旧鳥取市(郊外)／50代女性） 調査・設計を十分に行ない、 やり直し工事を行わないこと 。（住民／旧鳥取市(市街地)／60代男性）
早期整備【140件】	自然環境に配慮しつつも、魅力ある地域にするためには、 是非道路整備を早急にすすめるべき と考えます。（事業所／他鳥取市／金融業・保険業）
周辺道路等の整備・改良【86件】	山陰道整備により 県外車が増加 する。市内の一般道の整備も併せてお願いしたい。（住民／旧鳥取市(市街地)／60代男性）
車線数や道路線形【78件】	一車線だと、 みんなと同じスピードを出さないといけ ない為 疲れる 。出来れば 二車線化 をお願いしたい。（住民／旧鳥取市(商業地)／60代女性）
案内標識の設置・充実【36件】	地元民の生活道路としての利用と、 県外からの観光利用が同じ道路を利用することになり 、 標識案内の一層の充実を 図る必要がある。（住民／旧鳥取市(市街地)／60代男性）
その他要望【145件】	将来の居住・人の流れを予測した 道路整備 をお願いいたします。（住民／旧鳥取市(市街地)／50代女性）
肯定的意見【111件】	環境変化や騒音を懸念する声ができると思うが、 道路整備によるメリットのほうが大きい と思われる。（住民／旧鳥取市(市街地)／年齢不詳男性）
否定的意見【77件】	人口規模に対して、 過大なライフライン に思える。（住民／旧鳥取市(市街地)／40代男性）
アクセスに関する意見【54件】	山陰道、鳥取環状道路が相互に使用出来るように 接続 されること。（住民／旧鳥取市(市街地)／60代男性）
その他意見【99件】	生活道路と幹線道路・高速道路の 役割を分離、明確にした計画 。（道路利用者／鳥取県外／30代男性）

3. 第2回意見聴取の結果

5) 第2回意見聴取の結果のとりまとめ

◇対応方針（案）を選定する際に重視・配慮すべき事項

○住民、事業所、道路利用者に対するアンケート調査において、「①渋滞が緩和できること」、「②交通事故が起きにくいこと」、「③自然災害に伴う通行止め発生時に代替路が確保されること」、「⑦高速ICから主要な観光地へのアクセスを向上させ、広域観光を促進すること」について、重視する声が多く寄せられた。

特に重視すべきと思われる項目	全体 (回答数：6,742件)	回答属性別		
		住民 (回答数：5,362件)	事業所 (回答数：682件)	道路利用者 (回答数：698件)
① 渋滞が緩和できること (4,497件)	66.7%	65.2%	72.6%	72.8%
② 交通事故が起きにくいこと (2,071件)	30.7%	31.4%	33.6%	23.1%
③ 自然災害に伴う通行止め発生時に代替路が確保されること (2,430件)	36.0%	37.2%	38.0%	25.2%
④ 救急医療機関へ早く、確実、安全に搬送できること (1,386件)	20.6%	20.8%	18.3%	20.8%
⑤ 物流時間の短縮や移動時間を読みやすくし、産業活動を支援すること (1,209件)	17.9%	16.7%	30.2%	15.6%
⑥ 農林水産物の生産拠点などから消費地までの時間を短縮し、市場を拡大すること (216件)	3.2%	3.0%	4.5%	3.6%
⑦ 高速ICから主要な観光地へのアクセスを向上させ、広域観光を促進すること (1,973件)	29.3%	29.6%	21.1%	34.4%
⑧ 移動の利便性向上により、周遊性が向上すること (1,221件)	18.1%	18.2%	12.5%	22.6%
⑨ 道路沿線の大気質や騒音の影響が少ないこと (389件)	5.8%	6.3%	3.5%	3.6%
⑩ 景観への影響が少ないこと (257件)	3.8%	3.8%	2.6%	5.2%
⑪ 人口集中地区を極力さけること (717件)	10.6%	11.3%	8.7%	7.7%
⑫ 工事中の交通渋滞の影響が少ないこと (614件)	9.1%	8.9%	11.3%	8.7%
⑬ 道路の建設に要する費用、維持管理に要する費用が安いこと (1,281件)	19.0%	21.1%	12.6%	9.5%
⑭ その他 (159件)	2.4%	2.2%	2.1%	3.9%

○上記に加え、懸念される事項に関して、アンケートの自由記述やヒアリング結果では、「自然環境への影響」についての懸念や配慮を求める意見が多く寄せられた。

○また、インターチェンジなど周辺からのアクセスを検討する際に配慮すべき事項について、自由記述やヒアリングによると「IC周辺を含めた渋滞の緩和、円滑な移動の確保」、「主要な拠点へアクセスしやすいこと」などの意見が多く寄せられた。

○アクセスすべき拠点として、政策目標に直結する「主要な観光地」、「高次医療機関」、「空港・港湾」、「物流・生産拠点」に加え、「中心市街地」、「主要な幹線道路」、「商業施設」が挙げられ、日常生活の利便性向上に係る意見が寄せられている。

○その他、「安全・円滑な本線合流」や「適切な案内誘導」、「地域分断」などに関するご意見をいただいております。今後の具体的なルート・構造の検討時に配慮する必要があります。

4. 対応方針（案）の検討

4. 対応方針（案）の検討

2) ルート帯（案）の比較・評価

- 意見聴取の結果を踏まえ、「中心市街地へのアクセス性」と「自然環境への影響」を評価項目・指標に追加する。
- 【案①全線バイパス案】は、全ての政策目標の達成が見込めるほか、ルート帯を検討する際の配慮すべき事項についても、他案に比べ相対的に優れている。
- 意見聴取において重視すべきとの回答が多かった、「渋滞が緩和されること」、「交通事故が起きにくいこと」、「自然災害時の代替路が確保されること」、「主要な観光地へのアクセス性の向上」の項目についても【案①】が優れており、地域のニーズにも応えられている。

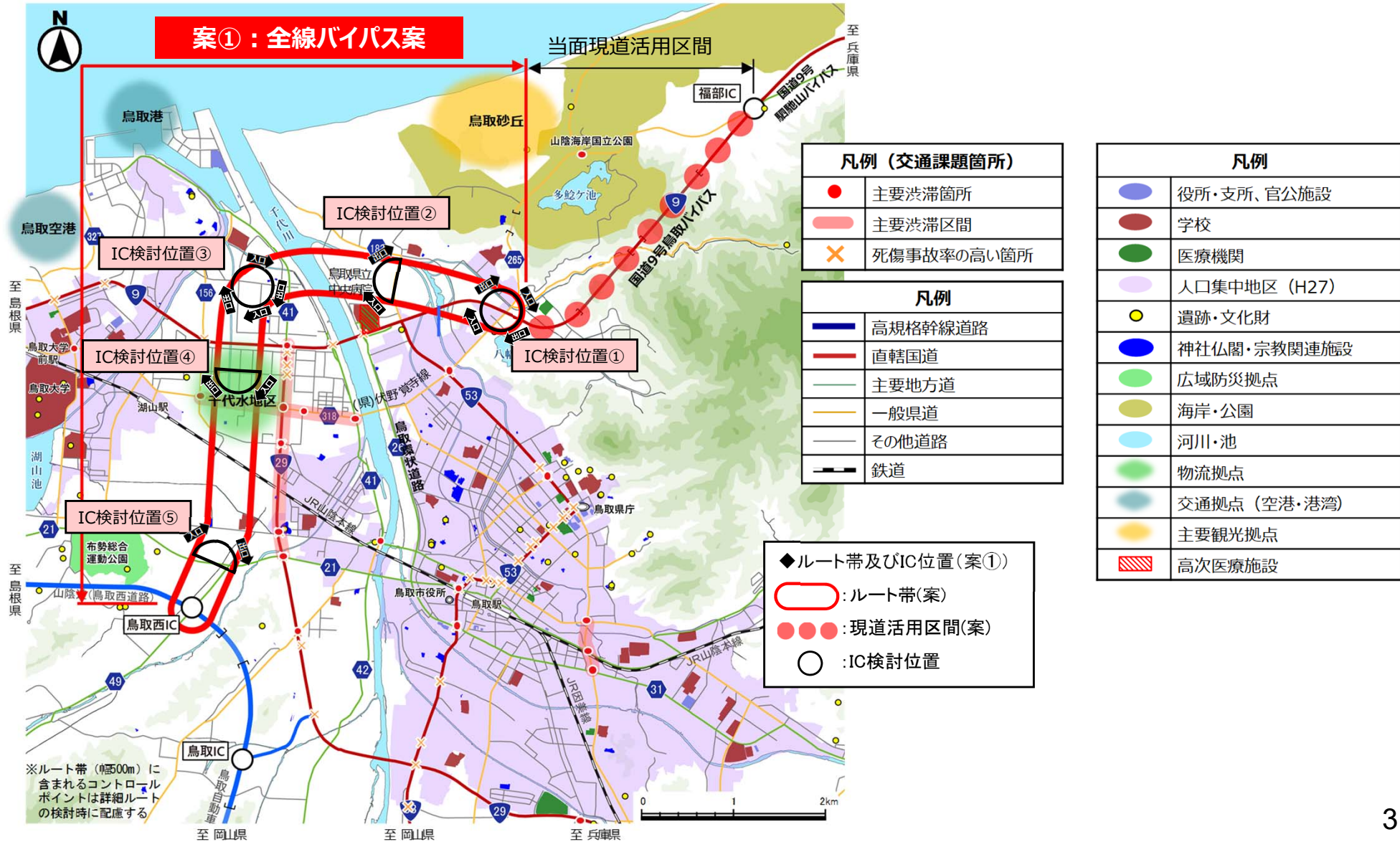
評価項目・評価指標		ルート帯案の概要		案①	案②	案③
		市街地を回避し、主要拠点を連結する全線バイパス案		市街地を回避しつつ、整備区間を極力最短で結ぶ部分バイパス+現道立体化案	走行性の高い既存道路を活用する部分バイパス+現道活用案	
		延長 約 11km (新設 7km、活用区間 4km) 自動車専用道路+一般道路		延長 約 10km (新設 5km、活用区間 5km) 自動車専用道路+一般道路	延長 約 12km (新設 4km、活用区間 8km) 自動車専用道路+一般道路	
「政策目標に対する評価」	日常生活の利便性・安全性の向上	主要路線における混雑の緩和	○ 新設道路に通過交通等が転換し混雑が緩和 ・新たな渡河部が整備され、ネットワークの多重性が向上	○ 新設道路に通過交通等が転換し混雑が緩和	△ 通過交通等が転換し、混雑が緩和するが、最も渋滞する国道29号周辺への効果は小さい ・新たな渡河部が整備され、ネットワークの多重性が向上	
		交通安全性の向上	○ バイパス整備により混雑が緩和し、安全性が向上	△ バイパス整備により混雑が緩和し、安全性が向上 ・国道9号の立体部と平面部の接続において交通処理が必要	× バイパスを整備しても混雑が残存するため交通事故の減少効果は限定的	
		中心市街地へのアクセス性	△ 周辺地域からのアクセス向上が見込まれる	△ 周辺地域からのアクセス向上が見込まれる	○ 周辺地域からのアクセス向上が見込まれる (最もアクセス性に優れる)	
	災害時にも機能する信頼性の高いネットワークの確保	千代川氾濫時等の交通機能の確保	○ 路面冠水による通行規制を回避可能 ・新たな渡河部が整備され、ネットワークの代替性が向上	○ 路面冠水による通行規制を回避可能	× 鳥取環状道路区間において路面冠水のおそれ ・新たな渡河部が整備され、ネットワークの代替性が向上	
		救急医療機関への到達性・信頼性	○ 走行性の高い道路で結ばれ、搬送時間の短縮や患者の負担軽減が見込まれる (現況と比べ5分短縮)	○ 走行性の高い道路で結ばれ、搬送時間の短縮や患者の負担軽減が見込まれる (最も短縮) (現況と比べ7分短縮)	○ 走行性の高い道路で結ばれ、搬送時間の短縮や患者の負担軽減が見込まれる (現況と比べ5分短縮)	
	産業活動の支援	物流拠点への到達性・定時性	○ 主要渋滞箇所が連続する国道29号をバイパスするため、速達性・定時性が向上 ・千代水地区に近接するためアクセス性に優れる (最も短縮) (現況と比べ7分短縮)	○ 主要渋滞箇所が連続する国道29号をバイパスするため、速達性・定時性が向上 ・千代水地区に近接するためアクセス性に優れる (最も短縮) (現況と比べ7分短縮)	× 千代水地区から離れているため、効果は見込めない (短縮しない)	
		水産物の輸送時間の短縮	○ 高速ICへ直結するネットワークが形成され輸送時間が短縮 (現況と比べ6分短縮)	○ 高速ICへ直結するネットワークが形成され輸送時間が短縮 (最も短縮) (現況と比べ7分短縮)	○ 高速ICへ直結するネットワークが形成され輸送時間が短縮 (現況と比べ5分短縮)	
		主要観光地 (鳥取砂丘) へのアクセス性	○ 鳥取ICと新たな道路で結ばれアクセス性が向上 (現況と比べ5分短縮)	○ 鳥取ICと新たな道路で結ばれアクセス性が向上 (最も短縮) (現況と比べ6分短縮)	○ 鳥取環状道路の前後区間がネットワークされアクセス性が向上 (現況と比べ5分短縮)	
	観光振興の促進	周遊性の向上	○ バイパス整備により、交通状況が改善され、周遊性向上が見込まれる ・交流拠点である鳥取空港・鳥取港と鳥取砂丘方面が最短で結ばれ、拠点間の連携強化が期待	○ バイパス整備により、交通状況が改善され、周遊性向上が見込まれる	× 交流拠点から離れているため効果は小さい	
		生活への影響	○ 新設道路沿線：新たな交通により、生活環境への影響が大きくなる可能性 ・既存道路沿線：交通が転換することで生活環境への影響は小さくなる可能性	△ 新設道路沿線：新たな交通により、生活環境への影響が大きくなる可能性 ・既存道路沿線：交通が転換することで生活環境への影響は小さくなる可能性。ただし、現道(国道9号)区間では、交通が集中し、生活環境への影響が大きくなる可能性。	× 新設道路沿線：新たな交通により、生活環境への影響が大きくなる可能性 ・既存道路沿線：鳥取環状道路沿線の生活環境への影響が大きくなる可能性	
配慮すべき事項	移転が必要となる家屋数	△ 約 110 軒	○ 約 90 軒	× 約 110 軒 ※一部、人口集中地区を通過		
	景観への影響	△ 景観に変化が生じるため配慮が必要	△ 景観に変化が生じるため配慮が必要	○ 景観に変化が生じるため配慮が必要 (新設延長が最も短いため他案より与える影響が少ない)		
	自然環境への影響	△ 地形を新たに改変するため配慮が必要	△ 地形を新たに改変するため配慮が必要	○ 地形を新たに改変するため配慮が必要 (新設延長が最も短いため他案より与える影響が少ない)		
	工事の影響	○ 新設での道路整備となるため、工事中の現道における交通規制の影響が少ない	× 幹線道路である国道9号を立体化するため、工事による交通規制の影響が大きい ・交通を確保しながらの工事となるため、事業期間の長期化が想定される	△ 既存道路を活用区間が多いため、交通規制の影響は少ない		
	経済性	建設に要する費用	△ 約 600～650億円	○ 約 500～550億円	○ 約 280～330億円	
	維持管理に要する費用	× 道路を新設し管理する延長が増えるため、現在より維持管理費用は増加する (新設延長が最も長い他案より高い)	△ 道路を新設し管理する延長が増えるため、現在より維持管理費用は増加する	○ 道路を新設し管理する延長が増えるため、現在より維持管理費用は増加する (新設延長が最も短い他案より安い)		

◎：かなり改善・満足する ○：改善・満足する／最も影響が少ない △：一部改善・満足する／少なからず影響がある ×：課題が残存又は他案より劣る／影響が大きい

4. 対応方針（案）の検討

3) 対応方針（原案）の検討

- 全ての政策目標の達成が見込め、地域ニーズの高い渋滞や事故、災害時の代替性などにおいて特に優れた効果が期待され、総合的に優れた【案①：全線バイパス案】を対応方針（案）とする。
- インターチェンジの配置については、政策目標の達成や地域ニーズを踏まえ、主要観光拠点、産業・物流拠点、救急医療機関等の主要拠点や中心市街地との円滑な連絡、交通混雑の緩和への寄与に配慮した配置案とする。



5. 自治体への意見照会結果

5. 自治体への意見照会結果

1) 自治体への意見照会〔対応方針（案）に対する意見〕

鳥取県

意見

鳥取豊岡宮津自動車道（鳥取～福部）における対応方針（原案）について同意します。

鳥取豊岡宮津自動車道（鳥取～福部）は、並行する国道29号の慢性的な渋滞や交通事故等の現道が抱える問題を解消し、物流拠点へのアクセス、産業・観光振興及び災害時等にも機能する高規格幹線道路と広域的なネットワークを形成する観点からも、早期の整備が是非とも必要です。

当県としては、当該区間の整備効果を早期かつ確実に発現させるため、地元鳥取市と連携して、事業の円滑な推進に向けた環境整備に努めるとともに、地域振興に資するアクセス道路の検討・整備に取り組み、地元の理解を得られるよう国とともに協力してまいります。

ついては、当該道路を早期に事業化していただきますよう特段の御配慮をお願いします。

第201900226908号
令和元年12月2日

国土交通省
中国地方整備局長 水谷 誠 様

鳥取県知事 平井 伸治



道路事業の計画段階評価に係る意見照会について（回答）

平素から当県の道路行政の推進につきまして、格別の御配慮を賜り厚くお礼申し上げます。

令和元年12月2日付国中整道計第15号で照会のあったこのことについて、下記のとおり回答します。

記

鳥取豊岡宮津自動車道（鳥取～福部）における対応方針（原案）について同意します。

鳥取豊岡宮津自動車道（鳥取～福部）は、並行する国道29号の慢性的な渋滞や交通事故等の現道が抱える問題を解消し、物流拠点へのアクセス、産業・観光振興及び災害時等にも機能する高規格幹線道路と広域的なネットワークを形成する観点からも、早期の整備が是非とも必要です。

当県としては、当該区間の整備効果を早期かつ確実に発現させるため、地元鳥取市と連携して、事業の円滑な推進に向けた環境整備に努めるとともに、地域振興に資するアクセス道路の検討・整備に取り組み、地元の理解を得られるよう国とともに協力してまいります。

ついては、当該道路を早期に事業化していただきますよう特段の御配慮をお願いします。

6. 対応方針（案）のまとめ

6. 対応方針（案）のまとめ

1) 対応方針（案）

1. 道路整備の必要性

【理由】

政策目標を達成できる道路整備を検討

【政策目標】

- ①日常生活の利便性、安全性の向上
- ②災害時にも機能する信頼性の高いネットワークの確保
- ③救急医療機関への速達性向上
- ④産業活動の支援
- ⑤観光振興の促進

- 評価対象区間は市街地を通過し、沿線には空港・港湾・鉄道駅などの交通拠点や物流拠点、県を代表する観光地、高次医療機関などが立地しているが、渋滞・事故・災害時の脆弱性により、移動における速達性や安全性、信頼性が低く、日常生活や経済活動において課題となっている。
- 住民、事業所、道路利用者及び自治体などからは、渋滞や事故がなく、安全で災害時に強く、広域観光を促進する道路が望まれている。

2. 対応方針（案）

■ルート帯について、【案①：全線バイパス案】を対応方針（案）とする。

【理由】

- 【案①：全線バイパス案】は、【案②：部分バイパス+現道立体化案】、【案③：部分バイパス+現道活用案】と比べ全ての政策目標の達成が見込める。
- 意見聴取において重視すべきとの回答が多かった、「渋滞が緩和されること」、「交通事故が起きにくいこと」、「自然災害時の代替路が確保されること」、「主要な観光地へのアクセス性の向上」の項目についても【案①】が優れており、地域のニーズにも応えられている。
- 地域の将来ビジョンや地域連携の取り組みである、高速道路ネットワークの確立、道路防災機能の向上などについても支援できる。

■インターチェンジの配置の考え方

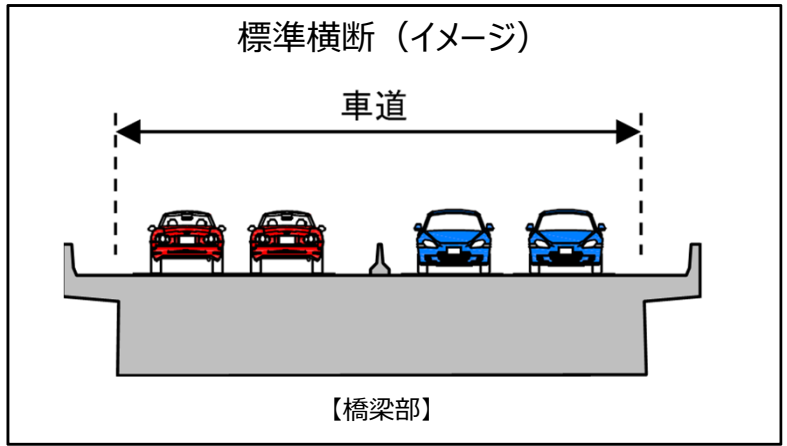
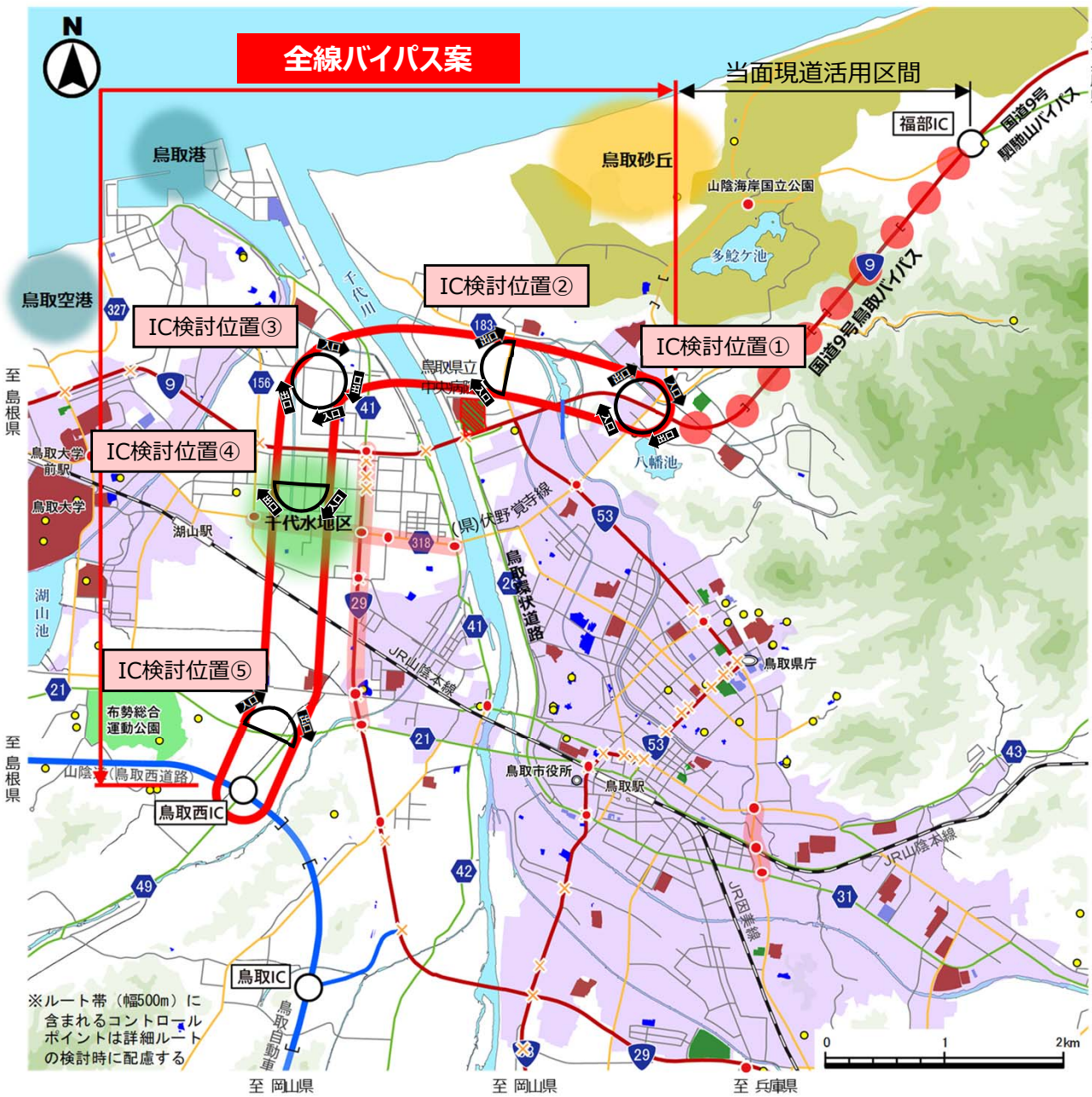
- インターチェンジの配置については、政策目標の達成や地域ニーズを踏まえ、主要観光拠点、産業・物流拠点、救急医療機関等の主要拠点や中心市街地との円滑な連絡、交通混雑の緩和への寄与に配慮した配置案とする。

3. その他

- 具体的な道路構造等の検討に際し、生活環境（大気質、騒音等）への影響、家屋の移転、景観への影響、自然環境への影響、工事中の影響、事業費・維持管理費のコスト縮減等にも配慮する。
- また、都市圏における道路交通課題については、引き続き、地元自治体と一体となって、交通状況の変化等を勘案しながら必要な対応に努める。

6. 対応方針（案）のまとめ

1) 対応方針（案）



凡例 (交通課題箇所)	
●	主要渋滞箇所
■	主要渋滞区間
×	死傷事故率の高い箇所

凡例	
●	役所・支所、官公施設
●	学校
●	医療機関
■	人口集中地区 (H27)
●	遺跡・文化財
●	神社仏閣・宗教関連施設
●	広域防災拠点
●	海岸・公園
●	河川・池
●	物流拠点
●	交通拠点 (空港・港湾)
●	主要観光拠点
■	高次医療施設

凡例	
—	高規格幹線道路
—	直轄国道
—	主要地方道
—	一般県道
—	その他道路
—	鉄道

- : ルート帯(案)
- : 現道活用区間(案)
- : IC検討位置

※ルート帯(幅500m)に含まれるコントロールポイントは詳細ルートの検討時に配慮する